課題整理し後半戦へ

防潮堤を勉強する会

気仙沼市民有志による「防潮堤を勉強する会」は、24日まで5回開催されたが、毎回100～170人が集まり、会場が満席状態になるほど関心が高まっている。29日からの後半戦は、基本的な知識を深める勉強を目的にした前半の課題を整理し、専門家や先進地から打開策を学んでいく。

高さ10㍍を超すものもある堤防計画に市民が疑問を抱く中、「納得のいくまちづくりを実現しよう」と今月5日に勉強会がスタート。3回目までは堤防計画の内容、海岸を大切にする米国ハワイの事例、浮上式堤防の実現性などを学んだ。

4、5回目は、各地区の代表者が現状や課題を報告。大学の協力で堤防計画をコンピューターグラフィックス（CG）にした唐桑町大沢地区、27回の会合を重ねた魚町2区、原型復旧を求める鶴が浦地区のほか、地域の意見をまとめるのに困っている地区もあった。

毎回100人超が出席する勉強会

勉強会の後半に向け、発起人による幹事会は、前半で出た課題を①津波シミュレーションへの疑問②市の防災対策と背後地の利用計画③堤防より海側に建てられるもののルール④守るものとは何か⑤何をもって合意とするか－などと整理した。

6回目以降は、市議会東日本大震災調査特別委員会からの活動報告、NPO代表から合意形成の手法説明、津波研究者の講話、菅原茂市長との意見交換などを予定。このほか、津波被害を受けた北海道奥尻島から、巨大堤防整備後の課題などを学びたいという。

次回は、29日午後6時から気仙沼魚市場3階会議室で開催。関西学院大の長峯純一教授が「各地区での話し合いおよび気仙沼市の選択肢の可能性」をテーマに講話するほか、支援を申し出ている専門家らを紹介する予定。

2012年 8月28日付『三陸新報』1面